

スキーインターハイの舞台へ

来年2月6日から10日まで、県内の“スキーの聖地”八幡平市で開催される第60回全国高等学校スキー大会。6月号から市内の選手を紹介しています。最終回となる今回は、秋田県・花輪高校に進んだ選手です。

競技生活最後の大舞台
地元で有終の美を飾る

齊藤由美佳 さん

さいとう・ゆみか 3年 日瀬通

◎profile

小2からクロスカントリースキーを始める。昨シーズンはインターハイ10^キフリー8位、リレー2位など入賞多数。尊敬する人は父。身長148^{センチ}。血液型A型のおひつじ座。18歳。田山小→田山中卒。

中 学校3年生のときに石川県で開催された全国中学校スキー大会。齊藤さんは、予選の県大会でクラシカルとフリーの2種目を制し、2冠の勢いで全国の舞台に臨んだが、クラシカル17位、フリー13位と思うような結果を残すことができなかった。もう一度自分を鍛え直し、大きな大会で結果を出したい。同じクロスカントリースキー競技をしていた姉・友美さんが通っていた影響もあり、花輪高校に進学することを決めた。

優秀な選手を輩出しているほか、去年のインターハイの学校対抗で男女共に3位に入賞するなど、全国屈指のスキー強豪校だ。スキー部に入部し、スキー中心の生活に変わった齊藤さんを待っていたのは厳しい練習だった。オフシーズンといっても休みなんでない。最初は練習についていくので精いっぱいだったそうだ。しかし、夏場の練習を乗り越えた成果は冬に必ず生かす、そう信じて練習に取り組んだ。

その成果はさっそく結果に出る。1年生ながら強豪ひしめく秋田県の予選を全種目で突破し、長野県で開催されたインターハイでは、5^キクラシカル17位、10^キフリー26位、リレー(5^キ×3)では3位入賞に貢献した。2年生になり、北海道で開催された前回大会でも、得意のフリーで8位入賞。リレーでは準優勝に入った。続く国体でもリレー(5^キ×4)で3位に入る活躍を見せている。

齊藤さんは、身長148^{センチ}の小さい体をフルに動かして大きな滑りができるのが持ち味。大森敬一監督も小さい体に秘めた大きなパワーに太鼓判を押すが、本人はクロスカントリースキーで大切と語る。「メンタル面の強さ」を課題に挙げる。実際、前回のインターハイは、気持ちの弱さを露呈し、クラシカルの出場を逃した。今は、練習に集中し、大会に向けてモチベーションを上げることに全力を注ぐ。

地元の声援を背に受け
スタートラインに立つ

尊

敬する由美佳さんと一緒に頑張りたい。中学校のときの悔しさを晴らしたい。そう誓って花輪高校に入学した。

クロスカントリースキーの魅力は「ただ滑るのではなく、コースをイメージしたり、ワックスなどの道具や滑り方など考えたりしながら競技すること」と語る八幡さん。現在は、持ち味である165^{センチ}の身長を生かしたダイナミックな滑りを生かすフォーム作りと体力を付けるため、この時期の練習を大切に、ローラースキーなどのトレーニングに黙々と取り組んでいる。

校内の競争に勝った上で、予選を突破するのは簡単なことではない。前回大会は出場できなかったが「地域の人たちは声を掛けて応援してくれる。秋田県の選手であっても、クロスカントリースキーを始めた小学校2年生のときから滑ってきた地元・田山のコースで開催されるインターハイであることは変わらない。めったにないチャンスをつかみ、成長した姿を岩手県選手の同級生や応援してくれる人たちに見せたい」と出場に強い意欲を見せる八幡さんは、得意なクラシカルはもちろん、由美佳さんと一緒に出場できるリレーで、スタートラインに立つことしか頭にない。

Topics

⑦

大会100日前に開催をPR

大会開幕まであと100日となった10月28日、県内高校のスキー部員は盛岡駅前とマックスバリュ西根店で第60回全国高等学校スキー大会をPRしました。

マックスバリュ西根店では、平館高校や盛岡農業高校の部員15人がのぼり旗を掲げ、大会ポスターの絵が差し込まれたティッシュ500個とリンドウ100本を配布。多くの人に会場で応援してもらうため、生徒自らが大会の盛り上げに一役買いました。また、盛岡駅前では、「岩鷲護神 ハチマンタイラー」もPRに参加しました。



ティッシュを配り、大会をPRする高高一樹選手(平館高3年、写真左)



八幡 優花 さん

やはた・ゆか 2年 苗石田

◎profile

小2からクロスカントリースキーを始める。昨シーズンは全国高等学校選抜スキー大会に出場。尊敬する人はスキー部の先輩方。身長165^{センチ}。血液型A型のおうし座。17歳。田山小→田山中卒。



開幕まであと65日

(12月2日現在)